

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全力！ ICHIOKA ～進路実現への取組み 100%、部活動への取組み 100%、学校行事と自主活動への取組み 100%～

- 多様性を理解し、主体的に判断し、他者と協働できる力をもって“A Iとの共生時代を元氣よく生き抜く生徒”を育てる。
- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。
 - 2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。
 - 3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

2 中期的目標

1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。

(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。

- ア 授業・講習・個人指導・資格試験等のバランスのとれた教育課程マネジメントのもと、生徒の第一希望の進路を実現する。
- イ 進路および履修のガイダンス機能を高め、生徒一人ひとりの自己理解と意思決定を支援する。
- ウ 全日制普通科単位制が一段高いレベルで希望進路を実現できる課程であることを情報発信し、中学生の進路選択に資する。
- エ グループウェア等を活用し、様々な学校環境下での学びの保障力を強化する。

(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。

- ア 日々の学習態度を整え読解力をつけるため、朝の読書時間を設け実践する。【観点別評価への備え】
- イ 思考力・判断力・表現力を育むことをテーマとした公開授業や授業研究の機会を設け、全ての教員の授業力を高める。【観点別評価への備え】
- ウ 進路指導や学力向上に特色ある取組みを行っている学校や教員の情報を収集・共有し学校経営に反映する。

(3) 安全で安心な学校をつくる。

- ア 年度の早い時期に生徒面談を行い、担任団・学年団で生徒情報の共有と共通理解を図り、適切な支援と不登校の未然防止を行う。
- イ 学年会議や職員会議で生徒情報の共有と共通理解を図り、必要に応じ「個別の支援計画」を立て適切な支援を行う。
- ウ 生徒の出欠や遅刻状況を「見える化」し、支援を必要とする生徒に適切な支援を行う。
- エ 感染症予防体制を徹底するとともに、感染発生時の復元力を強化し、生徒一人ひとりの心身の安全安心を守る。
- オ グループウェア等を活用し、特別な支援を必要とする生徒に適切な支援を行う。

※進路実績 国公立大学合格者数を毎年 10-20%引き上げ、R5には 50名にする。(H30 41名 R01 25名 R02 26名 3/15 確認分)

※生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率を毎年 3-4%引き上げ、R05には 85%にする。(H30 74% R1 74% R2 75%)

※年間 30 日以上欠席する生徒数を毎年 2-3 名減らし、R5には 10 名以下にする。(H30 34名 R01 16名 R02 32名)

2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。

- ア 部活動が安全・円滑に運営されるよう適切な活動時間の設定や指導者の確保など環境の整備に取り組むとともに、生徒が主体的に自学自習する習慣を身につけ、部活動と学習活動が両立するメリハリの効いた環境をつくる。

(2) 部活動を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

- ア 部活動を通じ、100%の力を発揮できる心身を育成する。
- イ 部活動において他校生との交流や地域行事への参加をすすめ、地域に愛される学校をつくるとともに生徒の自己肯定感を高める。

※生徒向け学校教育自己診断「進路実現への取組み」の肯定的回答率を毎年 3-4%引き上げ、R05には 85%にする。(H30 69% R01 75% R02 77%)

※生徒向け学校教育自己診断「部活動への取組み」の肯定的回答率を毎年 2-3%引き上げ、R05には 95%にする。(H30 86% R01 88% R02 89%)

3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

(1) 総合的な学習・探究の時間を充実させる。

- ア ユネスコスクールとして国際、地域、防災、人権の学習を通じ多様性を理解し、他者と協働して物事に取り組む力を育成する。また、その一環として地域の文化・産業を体験する修学旅行を企画し実施する。
- イ 総合的な学習・探究の時間において学校としてのアーカイブを整備し、より効果的に探究に取り組める体系を確立する。

(2) 学校行事や自主活動への主体的な取り組みをすすめ、生徒の達成感や自己肯定感を高める。

- ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通じ合意形成の進め方を学び、決めた合意やルールを遵守し他者と主体的に協働できる生徒を育てる。
- イ 文楽・落語・能狂言等の古典芸能鑑賞やクラシック音楽鑑賞など、特別で上質な行事体験を通じ、芸術芸能文化に関する豊かな感性を養う。
- ウ 海外での語学研修や大学等が実施するコンテストなど自主活動への参加をすすめ、多様性への理解や表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。
- エ その他校外の機関や団体と連携し、生徒にとって有益な活動の機会を提供する。

※生徒向け学校教育自己診断「多様性理解の充実度」の肯定的回答率を 95%に引き上げ、R05には 95%を維持安定させる。(H30 92% R01 93% R02 95%)

※生徒向け学校教育自己診断「総合的探究の時間の充実度」の肯定的回答率を毎年 2%程度引き上げ、R05には 95%にする。(H30 85% R01 90% R02 91%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
学校教育自己診断の生徒の肯定的回答率 ()内は前年実績 ■全21項目平均 ■3%以上、上下動した項目	■第1回 ■第2回 ■第3回

3 本年度の取組内容及び自己評価

(※ 学校教育自己診断に基づくチェック項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2 年度値]	自己評価
1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する	(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。 (2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。 (3) 安全で安心な学校をつくる。 働き方改革の推進 ※教員のモチベーション向上にむけての取組み	(1) ア 授業・講習・個人指導・資格試験等をバランス良く計画的に実施し、生徒の第一希望の進路を実現する。 イ 進路・履修ガイダンス機能を高める。 ウ 普通科単位制の魅力を情報発信し、中学生の進路選択に資する。 エ グループウェアを日常の指導に活用する (2) ア～イ ・他校の取組みを研究し、公開授業や授業研究を通じ、教員の授業力を高める。 ウ 学級文庫を充実させ、朝の読書時間を通じ思考力の基盤となる幅広い教養と読解力を育む。 (3) ア～イ ・学年、保健室、教育相談、生徒指導担当者の情報共有の機会を設けるとともに「個別の支援計画」の作成により、組織的な情報共有を図り、適切な生徒対応と支援を行う。 ウ 遅刻指導の方針を明確にし、遅刻や欠席のない自律的な生活習慣をもった生徒を育成する。 エ 感染症の予防から対応までを学校のシステムとして整備し、全員で情報共有し運用する。 オ 生徒支援のルールを設定し、関係機関と幅広く連携しつつ運用する 教育課程マネジメント等を進めるなか、教職員が互いに資質を高め合う同僚性の高い職場環境を作り、時間外勤務時間を削減に努めるとともに、意欲を持って生徒と向き合える時間を拡充し、進路実現を支援する。 職場におけるハラスメントの防止。	(1) ア 入学時の生徒の学力と過去5年の実績を考慮し、下記の人数を目標とする。 【3/15 確認分】 国公立大学 40名 [26名] 難関私立大学 70名 [58名] イ 進路指導やガイダンス充実度 ※問16 85%超 [85%] ウ 志願倍率1.1-1.2倍 [1.03倍] エ グループウェアの平時での活用率50% [新指標] (2) ア～イ ・市岡高校の授業は分かりやすいためになる。※問3 80% [75%] ・先生は教え方に様々な工夫をしている。※問4 80% [81%] ・生徒授業アンケートの5つの評価軸の学校平均値3.3超 [3.30] ウ 朝読関連の意識調査 [知識の幅が広がった]40% [38%] [勉強に役立った] 15% [9%] (3) ア～イ ・不登校(年間連続30日以上)の欠席)生徒数を前年比10%減とする。 [32名] ウ 遅刻生徒の延べ人数を前年比10%減とする。 [14名/日] エ～オ ・担任以外の先生にも相談できる ※問8 70% [61%] ストレスチェックの職場評価報告書の総合健康リスク値を大阪府教育庁平均102以下に維持安定させる。 [90]	
2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を推進する力、自分で判断する力、自分で考えて行動する力を育む	(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。 (2) 部活動を通じ自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む	(1) ア 生徒が自主的に部活動を運営できるよう指導者が支援を行うとともに、ノー・クラブデーの着実な実施など、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立に取り組む。 (2) ア～イ ・生徒が主体的に全力で部活動に取り組む、達成感と自己肯定感のもてる環境をつくる。	(1) ア 進路を実現する学習に取り組んでいる。※問2 80% [77%] (2) ア～イ ・部活動加入率 90%[82%] ・部活動や体育祭等の自主活動によく取り組んでいる。※問6 90% [89%]	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む</p>	<p>(1) 総合的な学習・探究の時間を充実させる。</p> <p>(2) 学校行事や自主活動への主体的な取り組みをすすめる、生徒の達成感や自己肯定感を高める。</p>	<p>(1)ア～イ ・総合的な学習・探究の時間について、生徒の成長が顕著にみられた取り組み及び新たな取り組みについて職員会議で報告研修を行い、成果の共有を通じ学校として質の向上を図る。</p> <p>(2)ア～エ ・体育祭、文化祭、合唱大会等の学校行事や校外での自主活動を通じ、主体的に他者と協働する楽しさを体験させ、協働する力を育成する。</p>	<p>(1)ア～イ ・多様性理解の充実度 90%超 ※問 13 [95%] ・総合的な学習・探究の充実度 90%超 ※問 14 [91%]</p> <p>(2)ア～エ ・学校行事の満足度 90%超 ※問 5 [93%] ・地域や小中学校との交流やボランティア活動等に参加する機会がある。 ※問 17 40% [33%]</p>	
--	--	--	---	--